

## 海外での技術士業務

### －技術指導と調査－

The Overseas Operations as Professional Engineer  
－ Technical Guidance & Investigation －

#### 1 クライアント

業務はJICA(国際協力機構)、OFCF(海外漁業協力財団)やUNIDO(国際連合工業開発機関)及びさまざまな国際業務に絡む協会・団体などからであった。

技術士業務16年間で民間からの依頼は2件、1件の結果は満足には程遠いものであった。受注の際には要請内容を十分に吟味することが必要である。

#### 2 地域

地域は開発途上国が大半であったが中にはUSA、ロシアといった先進国もあった。

東南アジア、南アジア、北米、南米、アフリカ、中東にある国々のうち、いくつかを取り上げてどんな経験をしたか、あるいは見聞をしたかを述べて参考に供す。



マラウィ国での技術指導の様相

#### 3 事前の準備

技術協力あるいは技術指導においてはJICAの案件であっても現場の要請と支援内容が全く異なることがたびたびあった。

これは職員の数が不足で詰めができていないことや、先方政府の思惑で我が国の支援を受けたという実績を作るため、さほど支援内容についての強い希望を抱いていないような場合である。従い業務に取り掛かる前に疑問があれば遠慮なく正したほうが良い。

#### 4 技術協力

(1) JICA案件：インドですり身の技術指導を行った時の事例。すり身のなんたるかを知らない相手に工程から説明し、用具が何もない状態なので持参の小さなナイフで魚をさばいて実例を示したが、相手は見ていだけで、手を出すことはなかった。カウンターパートの2名の係官が中央政府からついてくれたが、彼らも魚を処理することは初めてで、どのような器具や道具が必要かを知らず事前準備もなく、企業も何の準備もしていない状態の中で小さなナイフと香辛料を砕く乳鉢を使い、技術指導と称するものを約1カ月かけて沿岸各地を回り行った。これなどはすり身についての知識はどこの国でもあるものと思っていた小生の全くの事前準備不足に起因するもので、苦労はやむを得ないものであったが、今のインドでのすり身生産数量を見ると技術指導者として当時は小生の叱責を受けてうろろうしたカウンターパートは優秀であったと思う。インドではカースト制度に配慮することも重要である。

(2) JICA案件：タイの国立研究所において事前に状況説明を受け、数カ所の工場を見学した上で食品の衛生管理と水産加工場での水処理について講義を行った。このときは講義する内容を事前に英文で先方に送り教科書にしてもらったうえでそれに沿って講義を行った。受講者の大半が大学卒以上ということで、最終日にアンケートを取ったところよく判ったというのがほとんどであったが判らなかったという回答もあった。時間がなく判らないといった人たちへのフォローはできなかった。初日にもアンケートをとってその日の受講者の反応を確認すべきであったと反省した。実は似た例がインドでもあってこのときは講師の英語がわからないという手厳しいものであった。慰めと

しては付き添いの政府の役人が現地の言葉がわからないとこぼしていたことではあるがこの時は受講証明書を渡しながらかに英語力向上を決意した。

## 5 調査

(1) JICA 案件：中国への無償資金援助のエバリュエーション（評価）調査の事例。水産加工機材と実験室への機材供与に関する使用実績評価調査を行った。加工機械は使用されていたが実験室への供与機材は、鍵のかかる部屋で美しいビロードの布をかけて机に並べてあった。また、PC用電源は電圧変動が微小である必要があるが、大きな電圧変動が確認された。相手国の話の信憑性が揺らいだ事例である。

(2) 内閣府案件：日本技術士会が入札で落札できなかった案件で、落札した企業に人材がなく、技術士の派遣を求めてきたもので、釈然としないが中国、タイ、台湾と3人の技術士が行くことになり小生が中国を担当した。ちょうど毒餃子事件があり中国の農薬管理状況の調査で山東省の日系企業を回り、実態を調べた。調査結果は国に提出したが組織の変更や担当者の交代などがあり国側でのまとめは数年を要した。

(3) 海外漁業協力財団案件：セネガルに対するプロジェクトファイディングで4輪駆動車を駆って海岸をパリーダカール・ラリーさながらに走り、適地を見て回った。現地の要請の一つとして急浮上した漁港候補の海岸を見た。最初、崖の上から見たところいかにも適地という感じがしたが、念のためということで10メートルほど進み崖っぷちに近いところから見下ろしたところ大変な岩礁地帯で一見して膨大な資金が必要と理解できる場所であった。これなども計画から消去したが現地政府すら確認をせずに計画に入れたという。現地確認の重要性と思いつきには応じない姿勢が大事である。

## 6 危機管理

(1) タクシー運転手とは争わない。ぼられても大した額ではないと我慢する。時間の無駄である。

(2) 夜間の外出は現地カウンターパートが誘うなら考えても良いが日本人も含め外国人と明らかにわかる者とは外出しない。

(3) 白昼であっても注意は怠らない。小生は南米で複数の日本人と歩いているときに後ろより腕時計を取られかけて、ステンレスのベルトが切れずに手首に傷を負ったことがある。

(4) ホテルでも油断禁物。鞆のカギを過信しない。サムソナイトのアタッシュケースを開けられて現金の抜き取りにあったことがある。ホテルによってはセーフティーボックスも怪しい。

(5) JICA やカウンターパートの出迎えが遅れた時にJICAの依頼を受けたという者もおかしければ話に乗らない。真夜中のイスラマバード空港着ではそんなこともあった。

また、出迎えの方と車でホテルに向かう途中、急にUターンしたので何かと思ったら道の前方数十メートルのところに丸太があり、もし除けようと止まったらホールドアップという例もあるとのことだった。

(6) 一軒家を借りた時に2度も侵入されたことがある。家主にドアのかぎの付け替えをしてもらったのである。幸いにも自室にしっかりとカギをかけていたので被害は別部屋のみであったが衣服を盗まれたのには閉口した。

(7) 夜食をとるのにホテルの目の前のレストランまで車使用のところがあつた。歩いて行きたいが別なホテルの例でホテルの駐車場から入口までの数メートルのところで観光客が撃たれた事例を聞くととても数百メートルも歩いてレストランに行く気にはならなかつた。安全第一である。

(8) 食事に関しては何でも食べたが、果物・ヨーグルト以外は加熱品に限った。牡蠣などはナマを食べたが3個以上は食べないことにしていた。また赤貝は生煮えがうまいがまずは薦められても1個か2個にとどめた。場所によっては氷も要注意である。業務遂行上、健康管理を怠らず良好な体調を維持することも大切である。

林 英一 (はやし えいいち)  
技術士（水産部門）

林技術士事務所E&H-i 代表  
e-mail : haship@tbt.t-com.ne.jp

